

## 山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

12月号



つ ば さ

Yamaga Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420

## 感染対策向上加算1施設相互チェック評価を受けて

## 《感染制御室》

今年度は熊本地域医療センターより当センターの感染対策実施状況について評価していただきました。感染対策向上加算1の届出を行っている医療機関は、自施設の感染対策と管理に加えて、地域の医療機関との連携を推進・強化することの役割が大きくなってきています。そのような中で、感染対策の専門的知識を持った病院で勤務されている方々によって調査を実施していくことにより、細かな視点で調査を受けることができました。加えて、調査側で実施されている感染対策等を伺うことができ、この相互チェックは院内感染対策の改善と更なる推進につながる機会であると考えます。

今回の評価内容を確認し、地域住民と医療従事者の安全を確保できるよう、さらに感染対策の徹底に努めたいと考えます。

(文責: 感染制御室室長 廣瀬 憲一)

## 《臨床検査科》

より質の高い医療関連感染対策が必要になる今日、臨床検査科では細菌検査結果を最初に知ることから、



## 基本理念

いのち

## 地域住民の生命と健康への貢献

## 基本方針

## 山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に努めます

耐性菌や院内感染の発生などを情報発信する業務を行なっています。今回の受審で感染対策の設備の再確認や感染源になりうる環境改善についての新たな知識を得ることが出来ました。

感染対策は院内だけでなく地域との連携が重要です。近隣および関係の深い医療機関と定期的に情報交換やカンファレンス、訓練などを行い、地域の感染対策向上・推進の必要性を感じました。

(文責: 坂梨 由佳)

## 《薬剤科》

薬剤に関する項目としては、主に抗菌薬適正使用と薬の調製や管理状況について確認していただきました。

抗菌薬適正使用については、①抗菌薬の適正使用に関する監視・指導を行っているか、②抗MRSA薬の使用に関する監視・指導を行っているか、③抗菌薬適正使用に関して病棟ラウンドを定期的に行っているか、④抗MRSA薬やカルバペネム系抗菌薬などの広域抗菌薬に対して使用制限や許可制を含めて使用状況を把握しているか、などの項目について確認していただきました。

薬の調製や管理状況については、①薬剤の無菌調製が適切に実施されているか、②清潔な状況下で輸液調製が実施されているか、③薬剤の使用期限のチェックが行われているか、④薬剤開封後の使用期限の施設内基準を定めているかなどの項目について確認していただきました。

確認いただいた結果、特に改善点などの指摘はなく、抗菌薬適正使用と薬の調製や管理状況において、適切に管理できていると評価していただきました。

(文責: 生田 佳嵩)

## CONTENTS

感染対策向上加算1施設相互チェック評価を受けて…	P 1
第7回市民公開講座を開催しました…	P 2
医療最前線 (162) …	P 3
「PCAポンプを使用した持続皮下注射」の研修について…	P 3
外来担当医表 (12月) …	P 4

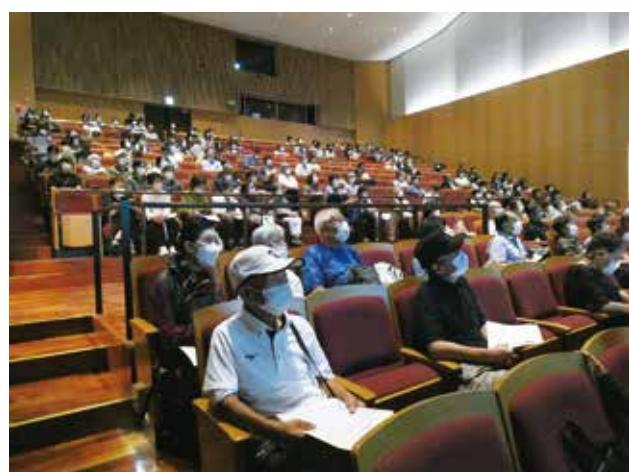
## 第7回市民公開講座を開催しました

当センターは平成29年から市民公開講座を開催しており、今年7回目を迎えました。過去には、「大腸がん」「胃がん」「乳がん」「肝臓がん」などをテーマに開催してきましたが、今回は「山鹿で出来る胆道がん・膵がんの診断と治療」と題して、当センターの医師、看護師、社会福祉士、理学療法士が発表を行いました。当日は200名を超える市民の皆さんにご来場いただき、健康について関心を持っていただけたことをとても嬉しく思いました。

はじめに、「健康診断とがん」として、地域健診室室長の高木医師が、予防・自覚のない病気の発見について、健診を受けることの必要性と早期発見が重症化の防止と医療費の削減になることについて説明しました。次に、がん相談支援センターの福島社会福祉士が、がん相談支援室の紹介を、上野理学療法士長が、がん患者の生活の質の改善を目的とするがんリハビリテーションについて説明を行いました。



次に、石河院長が「疫学、予防から早期発見まで」、消化器内科長の本原医師が「内視鏡診断と治療」、外科長の増田医師が「外科治療」、腫瘍内科長の宮本医師が「最新の薬物治療法」について発表しました。当センターで、早期発見から内視鏡的治療、外科的治療、薬物治療という一連の治療が可能なことを内視鏡件数や手術件数などの実績を示し、緩和ケア病棟の江藤看護師長が緩和ケア病棟を紹介しました。



最後にまとめとして別府事業管理者による講演の総括があり、胆道がん・膵がんについて、より理解を深めていただけたのではないかと思います。

さらに、ロビーでは第6回に続き、明治安田生命様のご協力のもと、城北高等学校の看護科、看護専攻科の学生さんに参加いただき、推定野菜摂取量測定（ベジチェック）、血圧測定、血管年齢測定などの健康チェックコーナーを担当いただきました。講座終了後には、講演を行った医師への質問コーナー設け、多くの市民の皆さんに立ち寄りいただきました。



これからも市民公開講座を通して市民の皆さんに健康について興味を持っていただき、山鹿市が目指す「健幸都市」を支えていきたいと思います。

(文責: 地域医療連携室  
看護師長 宮園 清子)

## 医療最前線 (162)



### 心疾患の標準治療である心臓リハビリテーションについて

循環器内科医  
中山 智子

皆様は心臓リハビリテーションをご存知でしょうか? 熊本県では2023年に熊本大学循環器内科の辻田賢一教授を代表に「熊本県心臓リハビリテーション推進事業」が立ち上げられ、ニュース番組や新聞で取り上げられるなど普及に向け県全体で盛り上がりを見せてています。熊本県の外来心臓リハビリテーションの実施率は3%未満と、他県と比べ低い数字で推移していましたが、この2年間の取り組みで導入率は9%まで上がっており、今循環器領域で一番勢いのある分野と言えるでしょう。

心臓リハビリテーションは、心血管疾患患者の「医学的評価・運動処方にに基づく運動療法・冠危険因子是正・患者教育およびカウンセリング・最適薬物治療」を多職種チームが協調して実践する包括的プログラムと定義されており、運動療法(有酸素運動+レジスタンストレーニング)はもちろんのこと、医師・看護師・薬剤師・栄養士など多職種が介入して疾患指導を行うことで、心疾患の二次予防のみならず、一次予防の効果も認められています。

適応病名は、1) 急性心筋梗塞、2) 狹心症、3) 心臓

術後、4) 慢性心不全 [①左室駆出率40%以下、②BNP80pg/ml以上もしくはNT-proBNP400pg/ml以上、③心肺運動負荷試験において最高酸素摂取量80%未満のいずれかを満たす]、5) 大血管疾患(大動脈解離後など)、6) 末梢動脈疾患(間欠性跛行があること)、7) 経カテーテル大動脈弁置換術後、8) 肺高血圧症の8つの疾患群です。そのエビデンスは非常に豊富で、虚血性心疾患患者では生命予後の改善、心不全では再入院やQOL・抑うつの改善が認められています。特に心不全においては、昨今ファンタスティックフォーと呼ばれる4種の薬物を用いた治療法が確立していますが、2023年の欧州心臓病学会では、それに心リハを加えた5本柱で心不全をマネジメントすべきだと改めて脚光を浴びました。いわゆる「リハビリ」のイメージとは異なり、心疾患の「標準治療」、つまり当たり前にやったほうが良い治療として推奨されているのです。

当たり前に享受されるべき治療法にもかかわらず、実際はまだ気軽にどこででも受けられるわけではないというのが実情です。当センターでは、2024年11月から心大血管リハビリテーション(I)を算定することになりました。当面は入院患者のリハビリのみ行いますが、外来心リハを提供している山鹿地域の三施設様に協力を仰ぎながら、心疾患患者の予後改善と心リハの普及に努めていきたいと考えています。

### 『PCAポンプを使用した持続皮下注射』の研修について

本研修は、がん診療連携拠点病院の指定要件となる、鹿本圏域の医療に従事する看護師を対象とした緩和ケアに関する研修として、年に1回開催しています。

今年度は、鹿本圏域の訪問看護師10名と当センターの看護師3名、計13名の受講生を迎え、PCA(Patient Controlled Analgesia=自己調節鎮痛法)ポンプを使用した持続皮下注射について演習を含めた研修を行いました。

今回の研修では、最初に緩和ケア病棟看護師より



「持続皮下注射の実際」について講義を行った後、実際の物品を使用してデモ機に皮下注射の実技を行い、次に臨床工学技士が「PCAポンプ」について説明し、ポンプの操作演習を行ないました。

看護師が持続皮下注射に関する知識と技術の理解を深め、PCAポンプの使用方法を理解することにより、持続皮下注射が必要な患者さんが、自分が居たい場所で、共に過ごしたい人たちに囲まれて、少しでも自分らしく生きることが出来るようになります。今後は病院と訪問看護で連携して患者さん・ご家族を支援していきたいと考えています。

受講された方々からは、「分りやすかった」「ポンプに触って操作もできたので大変勉強になった」などの感想をいただきました。

次年度は、『ポート管理』についての研修を希望する声もあったため、前向きに検討し準備していきたいと思います。(文責:緩和ケア病棟副看護師長 大坪 美香)

## 外来担当医表

12月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※ 後藤 由比古	※ 赤池 公孝	※ 後藤 英介	—	※ 後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※ 宮本 英明
消化器内科	中垣 貴志	竹野 洋司	本原 利彦	竹野 洋司 中垣 貴志	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	清水 博 中山 智子	中山 智子 清水 博	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	横田 秀峰 中原 達秀 井手 淳之介	工藤 智志 中原 達秀 井手 淳之介	手術 (担当医)	工藤 智志 横田 秀峰	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 / 増田 稔郎 辛島 龍一 / 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 増田 稔郎
乳腺外科	—	※ 富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	—	※ 原田 成美	—	※ 神波 大己 教授	—
小児科	小澄 将士	小澄 将士(午前) ※ 石井 真美(午後)	小澄 将士 (午後:予防接種)	小澄 将士(午前) ※ 石井 真美(午後)	小澄 将士
*小児科の午後は、16:00受付終了となります					
耳鼻咽喉科	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科(予約制)	—	非常勤医師	非常勤医師	—	—
産婦人科	非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	※ 片渕 美和子(午後) (受付13:00~16:30) 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師(午前) ★非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	非常勤医師(午前)
緩和ケア内科(予約制)	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里	堀 和樹	—
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	外科医(午前) 吉岡 明子(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	奇数週:担当医 偶数週:吉岡明子	外科医(午前) 消化器内科医(午後)
健診	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂

◎診療受付時間は、8:30(予約再診の方は8:00)~11:00

◎当日の受診に関する相談を除く電話は、14時から17時が受付となります。

※ 非常勤医師です。 ★ 第2、第4のみ診療となります。

## 特殊・専門外来【予約制】

12月

名 称	担 当 医 等	実 施 日	診察場所
外 来 化 学 療 法	担当医	毎週 火曜・水曜	各診療科
	※ 宮本 英明	毎週 金曜(がん薬物療法専門医)	
禁 煙 外 来	坂 田 和 子	毎週 月曜(午後)	Aブロック
睡 眠 時 無 呼 吸 外 来	坂 田 和 子	毎週 火曜・木曜(午後)	
小 児 科 予 防 接 種	小 澄 将 士	毎週 水曜(受付時間13:30~16:00)	Bブロック
ス ト 一 マ 外 来	担当医	毎月 第3水曜(午後)	
P E G 外 来	担当医	毎月 第2水曜(午後)	
セ カ ン ド オ ピ ニ オ ン 外 来	各専門医が担当します。 詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。

◎急患の場合は、この限りではありません。

ご注意:学会等の都合で変更になる場合があります。

◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地  
TEL(代表)0968-44-2185 FAX 0968-44-2420  
<http://yamaga-medical-center.jp>